

アドバイスレポート (別添2)

日時:2023年11月8日(水)

部署名：外来処置室

一次洗浄用シンク周囲の環境



シンク内は、医療関連感染の原因となる大腸菌や緑膿菌、セラチア、カビ類などが繁殖しています。シンク内の微生物を含んだ水が跳ね返る恐れのある場所での物品の乾燥は中止し、洗浄後ただちに拭いて片付けましょう。シンク内、排水口、水道周囲、水道エアレーターの汚染が認められました。1日1回洗浄しペーパーなどで拭き上げ乾燥させましょう。一次洗浄用シンクと手洗い用シンクが区別されていません。処置室内の2か所のシンクの内、一方を一次洗浄用シンクに、もう一方を手洗い専用シンクにし、使用目的で分けましょう。

スポンジの管理



スポンジは定期的に交換されておらず、スポンジの汚染が目立ちます。又、スポンジがシンク内に置かれているので、乾燥していません。スポンジは、スポンジに交換日を記載し定期的に交換する方法や、使い捨てのメラミンスポンジ等にする、吊り下げる、シリコン製など消毒や乾燥しやすい材質のスポンジを使用するなど、管理方法をご検討ください。

感染性廃棄物



棒（点線で囲ったもの）を使用して感染性廃棄物を押し込むと、中の鋭利物により感染性破棄物容器が破損し、職員や業者の針刺し事故につながる可能性があります。感染性廃棄物容器は8割で交換し、物を使って押し込む習慣を無くしましょう。

処置用カート



鑷子立てやガーゼカストの使用頻度が低い場合は、鑷子立てやガーゼカストを廃止し、使用時まで滅菌維持できる滅菌パックに変更しましょう。処置用カートが整理・整頓・清掃が実施されていません。1日1回整理・整頓を行い、持ち手など良く触れる部分や清潔物品を置く場所の消毒を行いましょう。又、段ボールや紙製の箱は、湿気を吸い微生物が繁殖しやすく、清掃しにくいので、洗浄・消毒しやすい材質のケースに交換しましょう。埃が舞いやすい高さは床から約30cmです。下段は、床から舞い上がる埃で汚染されるので、手袋等の清潔物品は中段又は上段に置きましょう。手袋等の個人防護具は、埃で汚染されないように取り出し口を上に向かないように設置する必要があります。

滅菌物・医療材料の保管



滅菌物が直射日光や水・埃の影響がある場所に保管されています。下記を参考に保管場所を変更しましょう。

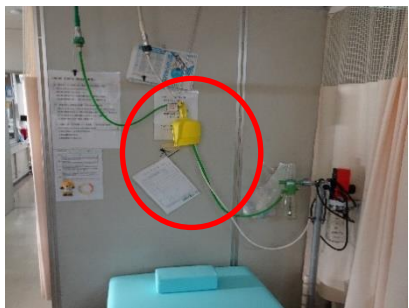
- 滅菌物を保管するための保管棚に滅菌物以外を収納しない
- 滅菌物は床、天井、外壁から十分離れた場所で保管する
- 滅菌物は、床から少なくとも 20cm, 天井のスプリンクラー設備 周辺から 45cm 以上、外壁から 5cm 以上の距離を確保する
- 滅菌物の保管棚は流し台の横や下といった水に濡れる可能性がある場所に配置しない

駆血帯の管理



駆血帯と聴診器が接触した状態で保管されていました。駆血帯は患者に使用后、洗浄や消毒せずそのまま保管されているとのことでした。採血は観血的手技であることから、患者間で共有する駆血帯は B 型肝炎などの血液媒介病原体の交差感染を起こす危険性があります。患者毎にアルコール綿等で清拭消毒しましょう。

清掃用具の管理



ベッドの頭側の壁にちりとりがぶらさがっており、酸素のパイピングホースなどに接触していました。清掃用具は専用ロッカーに入れる等、ゾーニングしましょう。

血糖測定器の管理



血糖測定器が使用毎に消毒されていませんでした。血糖測定器は、血液が付着するリスクが高いため、使用毎にアルコール消毒を行いましょう。



ミキシングゾーンが、陽が射す窓際でした。ブラインドからの埃も懸念されます。場所の移動をご検討ください。

部署名：内視鏡室

ビデオスコープの乾燥・保管



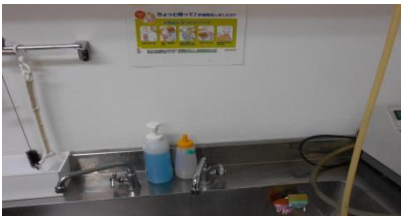
上部消化管用ビデオスコープと、下部消化管用ビデオスコープの2本は、常に内視鏡システムのスコープハンガーに掛けられています。内視鏡検査中も使用していないビデオスコープはスコープハンガーにかけられたままであり、患者の湿性生体物質により汚染していると考えられます。乾燥と保管は、現在活用されていない専用の棚を清掃し、そこに入れて行いましょう。又、ビデオスコープと感染性廃棄物容器が近接しています。感染性廃棄物容器の場所を変更しましょう。

内視鏡洗浄消毒装置の管理



いつ、誰が、どのビデオスコープを使用したかという記録はされていましたが、内視鏡洗浄消毒装置で使用する消毒液の濃度チェックが毎回実施されていませんでした。洗浄履歴も記録・管理しましょう。適切な濃度の範囲や確認の方法は、添付文書や取扱説明書等をご確認下さい。内視鏡の洗浄に使用される薬剤は、高水準消毒薬であり、十分な換気の下に使用しなければなりません。内視鏡室には上部に取り付けられた換気扇が1つのみでした。洗浄する職員や内視鏡室前で待つ患者の健康を守るために、洗浄する時間や方法を決めましょう。

内視鏡洗浄用シンク



内視鏡室内のシンクは1か所のみであり、内視鏡洗浄と手洗いが行われています。シンク内及びシンク周囲は、湿性生体物質で汚染されています。自動水栓ではないので、蛇口は内視鏡洗浄した手袋で汚染していると考えましょう。流水と石鹼による手洗いをした後は、水道の蛇口のハンドルで手を汚染しないように、ペーパータオルを用いて、蛇口を閉めましょう。



シンク内にスポンジ置き場がありました。
シンク内のため十分な乾燥が出来ない状態です。
使い捨てのメラミンスポンジ等にする、吊り下げる、シリコン製など消毒や乾燥しやすい材質のスポンジを使用するなど、管理方法をご検討ください。

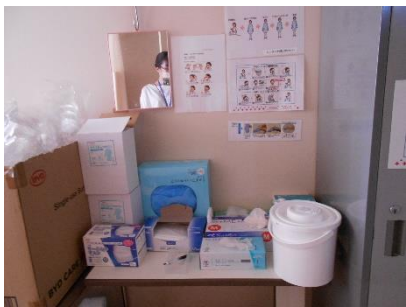
部署名：病棟

使用済みリネン室



新型コロナウイルス感染症患者が使用したリネンを入れるカート内に、その上に置かれていた未使用の回収袋が落ちて入っています。又、使用済みリネン室には、段ボールに入った別の物が保管されていました。整理・整頓しましょう。

PPE 着用場所



感染症患者の病室の隣にPPE着用の場所を設け、着用手順や鏡が設置されていることは良いです。感染症患者数は変動しますので、環境消毒用ワイプやPPEの使用期限の管理や、埃等で汚染しないように管理しましょう。保管には、虫や微生物の温床になりやすい段ボールの使用は控えましょう。

尿道留置カテーテルの管理



尿道留置カテーテルのバックは、膀胱より下に、そして床に触れない位置にありました。又、尿道留置カテーテルの固定も男性は腹部に、女性は大腿に固定されていました。

吐物処理セット



吐物処理セット内の物の中で使用しなかったものを、次の吐物処理セットに含めていました。使用しなかった物もウイルスで汚染されている可能性があります。吐物処理セットには、1回使用分のPPEや消毒薬、布のみを準備しましょう。

消毒薬の管理



汚物処理室の病院用ハイターに開封日の記載がなく使用期限も不明でした。使用期限を確認し、期限を超過した消毒薬を使用しないようにするために、容器に開封日を記載するなどの院内ルールを決めましょう。

汚物処理室



ポータブル洗浄用ブラシの汚染が目立ちます。定期的に変えてください。汚水槽周囲にバケツがあり、汚水や汚水槽内の水が跳ねて汚染します。汚水槽周囲での保管は避けましょう。

病棟一次洗浄用シンク



一次洗浄場所で、器材、ガーグルベースンの他、経管栄養の洗浄も行われています。経管栄養物品は、湿性生体物質やシンク内の微生物で汚染されないように、器材洗浄とは別の場所で洗浄しましょう。ここでも、スポンジの汚染が目立ち、乾燥されていません。スポンジの洗浄と乾燥をしてください。

器材消毒



次亜塩素酸ナトリウムは、直射日光を遮断するために遮光の蓋付き容器を使用しましょう。又、次亜塩素酸ナトリウムに浸漬する時は、中の空気を抜き、中蓋を使用するなど全てを浸漬させましょう。

ナースセンター



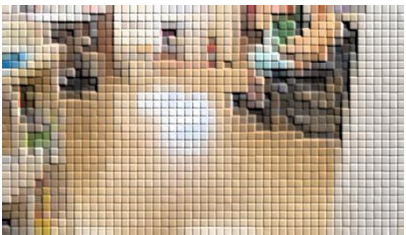
床上 30cm は、人が歩くと床の埃が舞い上がります。床上 30cm に清潔物品を置かない事はもちろん、書類等も手に取ると周囲に埃をまき散らすので、整理・整頓を行い、床上 30cm に物は置かない、又は埃がかからないような扉を取りつけましょう

ナースセンター



患者エリアに持ち込んだ物品は、消毒した上でナースセンターに入れましょう

ナースセンター



ナースセンター内に患者とご家族が入っていますが、ナースセンター内は医療者エリアです。患者エリアと医療者エリアの区別を行いましょう。又、患者や家族をナースセンターに入れる事は、個人情報保護の観点や、飛沫や触れた所からの感染の問題からお勧めできません。家族と面会する場所を別に設けましょう。

ナースセンターの手洗い場



ナースセンターの手洗い場には、ペーパーホルダーが設置されていました。又、正しい手順で手洗いができるよう手洗いの手順が掲示されていました。

電子カルテ用ワゴン



電子カルテ用ワゴンの最下段に携帯用感染性廃棄物容器が置かれており、きちんとゾーニングされていました。

病室前の掲示物



病室前に手指衛生の実施を促す張り紙が掲示されていましたが、用紙が折れ曲がり埃が蓄積しやすい状況でした。掲示物は清拭できるようラミネートすることをお勧め致します。

トイレ



トイレに置かれていた造花には、埃がかかっており、清掃が行き届いているとは言えません。又、石鹼に開封日が記載されていません。石鹼を詰め替えている場合は、容器を洗浄・乾燥後に詰め替えた日をテープ等で明記しましょう。水回りの掲示物は拭ける材質に変更しましょう。

部署名：検査室



冷蔵庫の上段に検体、下段に試薬が置いてありました。検体がこぼれた時の汚染範囲を狭くする、試薬汚染回避の観点から、上段に試薬、下段に検体を置くことをお勧めします。